



公益財団法人 ホソカワ粉体工学振興財団
Hosokawa Powder Technology Foundation



〒573-1132 大阪府枚方市招提田近1丁目9番地; Shoudai-Tajika 1-9, Hirakata, Osaka, 573-1132 JAPAN
[TEL]+81-72-867-1686 [FAX]+81-72-867-1658 [E-mail] contact_zainfo@hmc.hosokawa.com [URL] www.kona.or.jp

第56回 粉体工学に関する講演討論会を大阪で開催

- 【日時】 令和6年(2024年)9月3日(火) 午前10時00分～午後4時50分
- 【場所】 グランキューブ大阪 (〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島) ならびにオンライン
- 【主催】 公益財団法人 ホソカワ粉体工学振興財団
- 【企画】 粉体技術談話会
- 【後援】 ホソカワミクロン株式会社

去る9月3日(火)に、「第56回 粉体工学に関する講演討論会」が開催され、「先進製造プロセスを支える粉体技術とその応用」をテーマとして、粉体工学・粉体技術の基礎と応用の観点から、KONA 賞受賞講演を含む6件の講演が行われました。今回も、昨年度に引き続き、会場とオンラインでのハイブリッド形式で開催されました。

最初に細川悦男理事長より開会の挨拶があり、学界および産業界の幅広い分野からの参加者に歓迎の意を表し、この講演討論会の開催経緯や、当財団の国内外での粉体工学分野における活動等について紹介されました。続いて、KONA 賞の贈呈式が行われ、内藤牧男常務理事から2023年度受賞者のタイ国チュラロンコン大学名誉教授の Prof. Wiwut Tanthapanichakoon が紹介され、理事長よりKONA 賞の盾が手渡されました。KONA 賞は、粉体工学分野で顕著な業績を上げられた研究者に授与される国際賞であり、毎年、世界中から推薦された候補者の中から審査により原則1名が選ばれます。今回で38人目の受賞者となり、また、同教授は日本を除くアジア初のKONA 賞受賞者となりました。

引き続き講演会では、まずKONA 賞受賞講演が行われ、粉体・粒子工学の発展、ならびにタイと日本間の技術交流促進への貢献に関して、



開会式



KONA 賞贈呈式にて
(細川理事長と2023年度KONA 賞受賞者 Prof. Wiwut TANTHAPANICHAKOON)

特に HEPA フィルター技術の展開などサブミクロンやナノサイズの微粒子技術を応用した研究成果の代表例について、分かり易く解説さ



講演討論会会場風景

れました。続いて、粉体学界を代表して横浜国立大学の丸尾昭二教授と産総研の堀田裕司研究部門長のご講演があり、それぞれ、多様な粉体材料を用いた超精密 3D プリント技術の最新動向、およびセラミックス等の材料開発における AI 技術活用の有効性とマテリアル DX の貢献について発表されました。その後、産業界から近年注目を浴びている製品開発への粉体技術・ナノ粒子合成加工技術の応用に関して、太陽誘電(株)の川村知栄氏、東洋炭素(株)森下隆広氏ならびにホソカワミクロン(株)の清水健司氏から、それぞれ積層セラミックコンデンサ (MLCC) を活用したエネルギーデバイス開発、粉体制御技術による高機能カーボン材料開発とその応用、ならびに最先端の粉体製造プロセスのニーズに応える粉体測定装置の技術革新



総合討論風景

について講演されました。講演の後、当財団常務理事である大阪大学の内藤牧男名誉教授の司会により総合討論が行われ、各界の来場者から質問や意見が出され、講師が直接回答する形で活発な討論が交わされました。

講演会の最後に、ホソカワミクロン株式会社代表取締役社長から閉会の挨拶があり、講演会は無事に終了しました。講演会の後、昨年度に引き続き懇親会が催され、終始和やかな雰囲気の中で、講師と来場者との間で有意義な交流が行われました。今年の会場への来場者数は 80 名を超え、会場は満杯状態となり、オンラインを合わせると 250 名近くの参加がありました。次回(第 57 回)は、東京での開催を予定しております。



閉会式



懇親会風景